

アマチュア無線の運用に、業務日誌と交信証は、アンテナやトランシーバーと同様に大切なものです。しかし、これらを維持管理する事が結構厄介な事とでもあります。

私が開局した 1966 年には今日のようにコンピューターが容易に個人が持てる時代では無かったので、業務日誌 (LOG) は全て手書きで行っていました。また、1ヶ月に一度、無線局抄録提出していました。この無線局抄録は LOG とは別の様式なので、LOG から転記して提出していました。

現代のように PC で加工も出来ませんでしたので、大変な業務でしたが、1966 年の 4 月からは 10w 以下の局は無線局抄録の提出が免除となった為当局は 1、2 度提出だけでした、が LOG の記録は義務付けられていました。

現在の電波法 60 条では、無線局には正確な時計と業務日誌と無線検査簿、電波法令集などを備え付ける様になっているが、「但しアマチア局は時計と業務日誌は省略出来る」となっていますので、LOG の記載を行わなくても法的には問題ありません。

しかし、アマチュア無線を行う場合に、何時、何処のどの局と、何処の周波数で、交信して、RS (T) はどうだったかの記録は必要です。

しかも、交信証 (QSL) を発行する上でも大切な記録です。

私の場合は、開局当時と同様に手書きの業務日誌と HAML LOG を併用しています。

常置場所から運用する場合は、PC が使えるので HAML LOG に直接入力しています。移動運用をした時には PC が使えないので、紙 LOG に手書きで記載して、移動運用後に HAML LOG に入力しています、また、常置場所で HAML LOG に直接入力した記録も紙 LOG に記載して同期をとっています。

開局当時から、JARL 様式の B5 サイズの LOG を使用していましたが、数年前から B5 サイズから A4 サイズに変更となり、なんとなく違和

感があるので、Excel で作成した JA1WOB 様式を B 5 サイズの白紙の LOOSE LEAF に印刷して LOG に使用しています。

HAMLOG を使用する前は、BASIC 言語で自作した LOG-SOFT で PC 管理をしていましたので、HAMLOG への移行もスムーズに出来ましたので、1966 年の開局当時から現在まで HAMLOG に 6000 局ほど記録されています。

HAMLOG が便利なのは、コールサインを入力すると即の過去の QSO 経歴が表示されるので、40 年前に 1st QSO した局と再開して、昔話に花が咲く事があります、240 メンバーの JA1UPE 篠原 OM とは開局間もない 1966-3-20 に交信していますから、42 年前から知り合いと云う事になります。



交信証 (QSL) は開局当時、木版でコールサインと QTH を彫って画用紙をカードサイズに切って木版印刷をして発行していました。初めて、QSL を印刷を注文して出来上がって来た時は、とても嬉しかったのを今でも覚えています。

再開局した 1990 年に写真の QSL を注文印刷して、その後数種類の

QSL を注文印刷しました。

数年前からはHAMLOGで作成したカードを使用していますので、カードの注文印刷はここ 5 年位はしていません。

HAMLOGのカード印刷機能は大変良く出来ていて、写真なども印刷出来るので、常置場所用に 3 種類の写真や移動の場合は移動場所毎の写真を使用出来るので、何度も交信した局には同じカードが送られ無いようにする事も出来ます。

QSLのJARLへの転送は、2～3ヶ月に一度100枚前後を郵便で送っていました。

郵便の場合は定形外郵便と成る為に、土、日に武蔵村山市の本局まで行って重さを計り送ると送料が240円程かかりました。

最近、クロネコヤマトの「メール便」で送る様にしたら、A4サイズで厚さ1cmまでは、80円で島根まで送れる事を知り今年からはクロネコのメール便を利用しています。

しかも、コンビニで取り扱っていますので、何時でも送れるし、送り状番号から送付状況がWebで検索出来るのでとても便利です。

送る際の注意は、QSLが1cm以上の厚さにならない様に、4つ位の束して袋に入れるのがコツです。

詳しくは、クロネコヤマトのWebサイトで確認してください。

以上が私のアマチア無線運用です、参考になれば幸いです。